

令和元年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第5部会（行政・地域団体・学校部会）

富士吉田市立教育研修所 所長 三浦 雅彦

『富士吉田市内中学校のキャリア教育の連携について』

1 富士吉田市立教育研修所のご紹介

富士吉田市立教育研修所は

- ・本市の教育の振興及び児童生徒の健全な育成に寄与する。
- ・教育の研究並びに教員の資質の向上を図る。

ことを目的として昭和27年に設立され現在まで72年の活動を継続してきた。具体的には富士山教育研究実践事業、外国語指導委託事業、教職員の研修事業、校種間等連携事業などの事業を行っている

2 今本研修所に求められていること

現在日本ではコミュニティ・スクール化が進み、各地域、各校は今後の動向を注視しているところである。コミュニティ・スクール化は地域に開かれた教育課程や地域人材の活用、持続可能な教育の推進などの成果が期待されつつも、学校の働き方改革には課題を残す現状がある。一方平成27年中央教育審議会において、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）」において子供たちの成長のために、学校のみならず、保護者や地域住民等が教育の当事者となり、教育の実現を図ることが提言された。更に新たな地域社会を創り出し、生涯学習社会を実現すべく、地域と学校が連携・協働して、子供たちの成長を支えるとともに地域を創生する「地域学校協働活動」を推進すること、そのために従来の学校支援地域本部等を基盤に新たな体制として「地域学校協働本部」を全国に整備することも求めている。

そこで、本研修所の校種間等連携事業、教育課程部会等を活性化し、本市のどの学校でも均等で体系的なキャリア教育を進めることが上記の課題を解消することと考え、郷土を愛し地域社会に貢献する人材育成を図ろうと考えている。

3 具体的活動

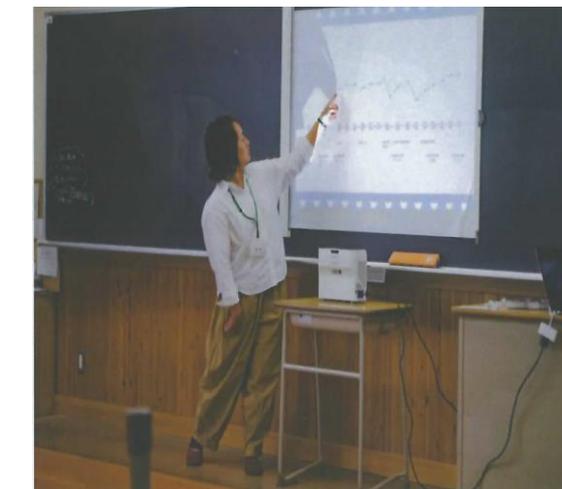
(1) 「ふるさと発見ワークショップ（仮）」の開催

本市は古くから富士山信仰、郡内織りの街として発展してきた。昨今はグローバルリズムや、日本の産業構造の変化、富士山の世界文化遺産登録等の影響で新しい時代を生き抜く街づくりが求められている。一方、児童生徒には知識基盤社会を逞しく生き抜き、自らの未来を切り開き、地域社会の形成者となることが求められている。

現在の本市中学校のキャリア教育は各校ごとの特色を生かしながら進められているが、諸機関と連携することで、富士吉田市や北麓地域の良さに気づき、将来をこの富士北麓地域で職を得ることを見つめ直す機会を市内全ての生徒に与える事ができると考えた。

本事業を推進するに当たって、本年度はまずは1中学校で「ふるさと発見ワークショップ」を開催し、来年度以降市内4中学校で同様の授業を教育課程に位置付けようと考えた。具体的には特定非営利活動法人「かえる舎」に依頼し、富士北麓地域で活躍する若者を15名募り11月15日に吉田中学校で5,6校時に公開授業を行うこととした。地域の職業人から職業講話を行うことは市内中学校では計画的に行われている。講師の人选は学年主任の先生方等に委ねられており、教え子や知り合い、保護者等に講師を依頼することが多い。人选の負担は少なくなかなかたでさえ忙しい先生方を苦しめている。

一方「かえる舎」は富士北稜高等学校、吉田高等学校などでキャリア教育の委託事業を進めており、特に富士北稜高校と富士吉田市は連携協定を締結しており同校では過去5年、各学年とも年間10時間のキャリア教育事業の実績がある。



学校でのキャリア教育の重要性は周知の通りであり、学ぶことの意義、働くことの意義を学びながら、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成は中学校においても重点が置かれている。そこで、中高連

携のキャリア教育の実践として「かえる舎」との連携は意義深いものと考えた。また、「かえる舎」のネットワークでは①高校卒業後富士北麓地域に就職した人材、②大学等卒業後富士北麓地域に戻ってきた人材、③他の地域から富士北麓地域に就職した人材を集めることができ、様々な視点や価値観を生徒に訴えかけることができる。更に全員が30代未満の若者で生徒と近い価値観で複数の方からワークショップ形式で交流ができる利点もある。市内にある大企業には富士吉田市産業観光部を通じて連携を図っていく。生徒や先生方のアンケートを行い本年度の成果と課題を生かしながら、来年度以降市内4校でワークショップが開催できるよう本研修所がコーディネーターとなって連絡調整を進めていく。

今後は中学校でのキャリア教育、職業講話等更に裾野を広げながら小学校のキャリア教育の活性化への体系的な関わり合いを模索し、小中高が連携しながら子どもたちのキャリア発達に近づけていきたいと考えている。

(2) 職場体験の市内共通データベース化

本市4中学校では中学校2年生の夏に職場体験を行っている。富士見台中学校では学校の特色を生かし7月上旬の平日の2日間で行っており、訪問先は学校が作成してある企業リストから生徒の希望を生かしながら選んでいる。移動は公共交通機関を使ったり生徒自身が企業に依頼する電話をしたり充実した体験と成っている。他の3校も熱心に職場体験を行っており、学校規模が大きいことから生徒に提供する企業リストは十分ではなく、多くの生徒は保護者の知り合いの企業に保護者が事前にお問い合わせ、改めて学校から依頼するケースが多くなっている。従って、保護者への負担は大きく、当該学年の先生方も1学期は職場体験先を確保し、連絡調整に忙殺されてしまう現状がある。

一方、富士吉田市産業観光部、商工振興課、富士吉田商工会議所も富士北麓地域に職を見いだす人材の育成は共通の目標であり、4月以降熱心なサポートを頂くことができた。市内各校は昨年度末から職場体験先の選定作業をそれぞれ進めており、前出3機関は大変な短期間の中、中学生の職場体験先を14社探り出して頂いた。今後は商工会議所内、市内外で職場体験先になっていなかった大企業等を含めて、データベース化を進め1年生の3学期の活動に生かしていこうと考えている。

また、市内の4中学校の生徒が今夏訪問した企業には来年度以降市内のどの中学生も受け入れて頂けたらデータベースが拡大するものと考え「市内中学生職場体験受け入れのお願い」、「市内中学校職場体験の心得」を中学校教頭先生方と相談しながら作成し、夏休み前に中学2年生に配布し今年度体験先企業にお伺いした。

山梨県教育委員会は山梨県労働局職業安定部、ハローワーク等と連携して「インターンシップ、ジュニアインターンシップ、職場見学受け入れ企業一覧」を作成し、山梨県総合教育センター内ピーチウエアで公開して頂いている。ここには富士吉田市近隣の38企業が登録しており、これらもデータベースに加えた。

富士吉田市を初め、富士北麓6市町村では来年2月には総合求人サイトを作成する予定である。当サイトは市町村の枠を越えて様々な立場の人々が地元企業の求人状況やインターンシップ、職場体験、職業調べ等に幅広く対応できるものであり、今後の活用が期待されている。我々が獲得できたデータベースの活用も可能であると考えている。

更に小学校での「まちたんけん」、「社会科見学」もデータベースに取り上げ、小中高の連携を図っていこうと考えている。



小さい頃ハマっていたもの	自分ができる自慢	おちつく〇〇
見ると元気になるもの	自分を表す一枚	愛着があるもの
私だけの習慣	他人からもらった嬉しかったもの	憧れている人キャラ

